

<目次>

I. 2005年度の成果と総括	2
II. 2005年度 事業報告	8
1. 概要	8
2. センターの事業に関する事項	10
3. センターの運営に関する事項	30

III. 2005年度 収支報告

こちらのページをご覧ください。

http://www.minmin.org/Whats_se_mi/yosankessan.htm

IV. 資料（省略）

I. 2005年度の成果と総括

私たちは2005年度を「構築期から展開期への転換」と位置づけ、「土台づくり」から「太らせる・強化する・成果を実らせる」方向性へ転換していくということを掲げた。その成果はどうだっただろうか。

〔社会環境認識〕

まず事業計画において社会環境認識については、

- NPO法人の真価が問われ、淘汰が始まる。
- 協働の真価が問われ、深化が求められる。
- 社会環境変化とスピードは一層激しいものになる。

という3点の現状分析をした。

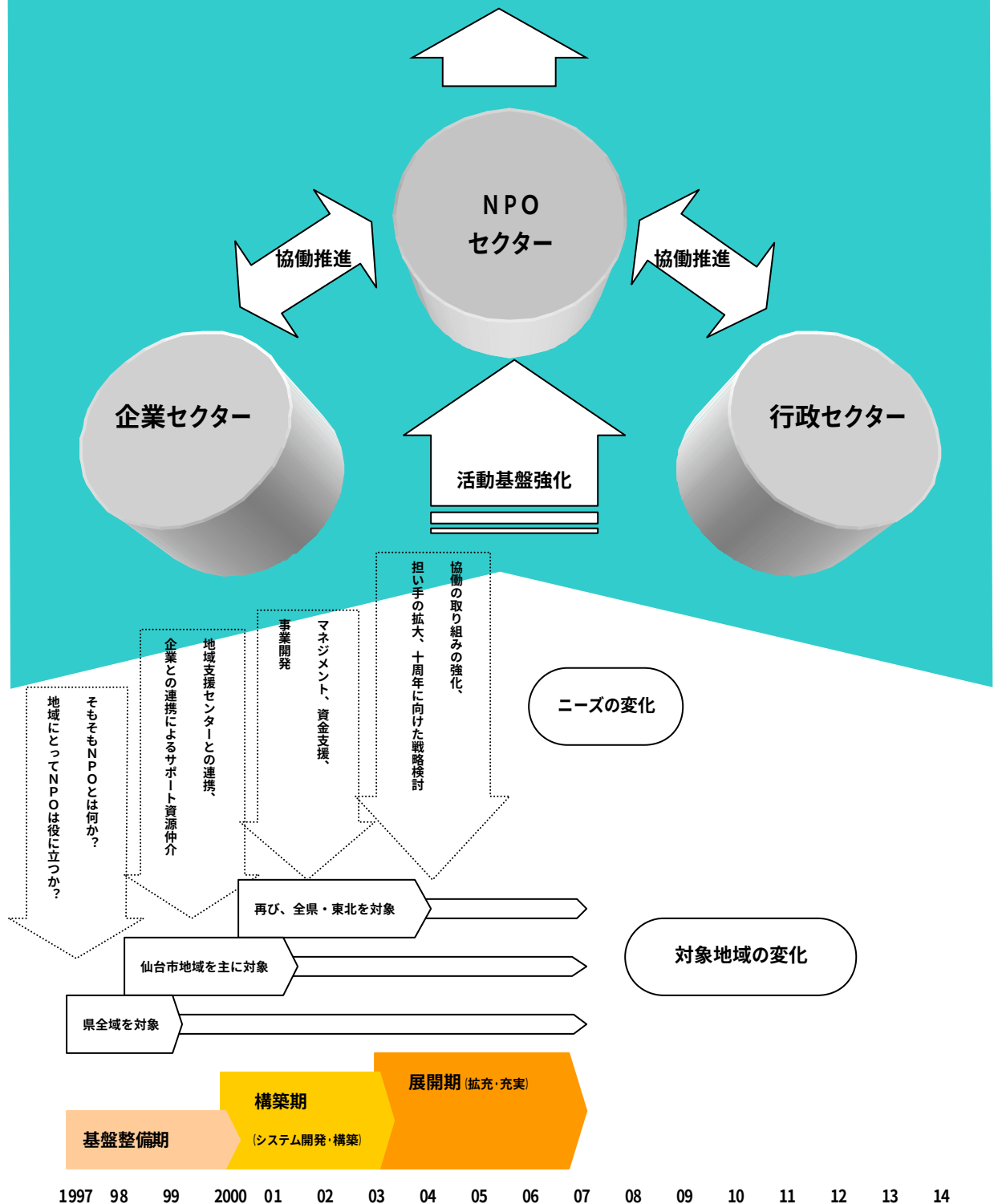
実際、宮城県内の特定非営利活動法人認証数は427団体（2006年7月21日）、全国の法人認証数は28,670団体（5月31日現在）とますます増加をしている。その中で宮城県内でも、昨年の後半からNPO法人の不祥事が次々と明るみにでて、マスコミに報道された。NPO法人設立の学校の不祥事、環境NPOによる補助金詐欺事件、別のNPO法人による補助金の不正受給発覚、理事による使い込み事件などである。その結果、どうしてもNPO一般が胡散臭くなり、厳しい目で見られることになった。

このような社会環境の中でも、適切な啓発を行い、また信頼にたるNPOの存在を社会にアピールしていくためには、当センターが運営する「NPO情報ライブラリー」の適正な運用はますます重要性が増してきたと言えよう。事実、支援的な関わりを果たしている企業・団体の皆さんと話をしていると、NPOの信頼性についての問いかけが多数あり、信頼性の構築を求められていることがひしひしと伝わってくる。逆にNPO側が社会に支援を求めるのならば、その期待と信頼にどう応えていくかが問われていると言える。

また、新たな動きとしては、2006年5月の参議院において行政改革関連法案が成立したが、その中には公益法人改革三法案が含まれており、NPO法人格より簡易に一般社団、一般財団という法人格の取得ができる時代が幕を開けようとし

市民社会の発展

NPOの活動の発展



ている。従って各地のNPO支援センターや認証担当窓口などは、NPO法人化関連だけではなく、公益法人化の相談対応や市民からのクレーム対応も求められる可能性が大である。

いずれにせよ 2005 年に示した現状認識はますます深化し、多様なNPOがよい意味で切磋琢磨する時代に突入したと言える。その中で、当センターは、「NPO情報ライブラリー」の運用を以って自発的な情報の公開と発信を進めるNPOを社会にアピールしており、また特に社会的支援が必要な分野に集中してサポート資源を投資していく戦略を高めていく必要があると認識して実施した。

[センターの現状と展望]

現状と展望では、中核事業の安定的運用から、「協働の取り組みの強化」に転換するという方針を出していた。ここは、「自治体とNPOとの協働環境に関する調査」(I I H O Eとの共催、2005 年 6 月～2006 年 1 月)の実施を通して、NPOの政策提案に関する関心を高め、1月に開催した調査の報告会で「協働の強化書研究会」への参加を呼びかけ、4月より研究会を発足させた。この研究会には、行政職員とNPO関係者の双方が多数参加し、現在一緒に調査とヒアリングと議論に取り組んでいる。せんだいCARE S実行委員会もそうだが、市民・NPO関係者、行政との協働の取り組みに端緒をつけることができた。

また「担い手の拡大」という方針については、順調に人材が成長している。特に、2006 年 1 月より、毎月のセンター会議（全スタッフ参加の会議）において、仕事の基礎的考え方についての研修を連続で行い、スタッフのスキル向上と学習組織への変革の糸口を作れたことは大きな成果であると考えている。

仙台市市民活動サポートセンターでは、HPのリニューアルなどサービスの向上に努めたが、一方で1年かけての新サポートセンターへの移転準備作業に忙殺された。幸い順調に進めることができ、移転を契機にさらなるサービスの向上にも取り組むことができた。しかし、当センターが蒙った有形無形の労力奉仕は莫大なものであり、そのツケが決算書にも

表れざるを得なかったことは残念である。2006 年は指定管理者 3 年目であり、仙台市に対しては来期に向けた提案もしてきているが、公募によって当センターが選ばれるかどうかはまったく不確実である。

[重点事業]

その他、重点強化事業の中では、「社会的メッセージの発信の強化」については、ホームページの強化策などが間に合わず取り組みが遅れている。また、「NPO 経営能力向上支援(相談・コンサルティング)の強化」についても、取り組みは不十分で、今年度に持ち越しの強化テーマであると認識している。

「みんなファンドの寄付者（ドナー）開発の強化」については、共同募金の配分金をいただいて「ドナーの学校事業」を実施、OKOKORO チケット（寄付券）の販売で、総額 667,000 円を獲得、寄付者獲得の体験を参加 NPO と共有することができたと思うが、その成果を直接次に生かすという点では、まだ試行段階の取り組みであったと言えよう。

「センター会員制度の抜本的見直しへ向けた検討委員会の設置（1 年間）」であるが、後半ようやく設置し検討を始めたところであるが、まだ結論を出すには至っていない。むしろ NPO の皆さんと議論を共有しながら理論的検討を進めていければいいと思っている。「センターの長期ビジョンの策定に向けた討議の継続」については、理事合宿や拡大理事会、評議員会などの機会を通じて、広く議論を重ねてきた。中期的には、すべての NPO への広く薄い支援から地域における中核的な NPO との関わりを深める取り組みへシフトすること、コミュニティ組織のあり方に関する研究の成果を生かす取り組みの強化などを検討中である。

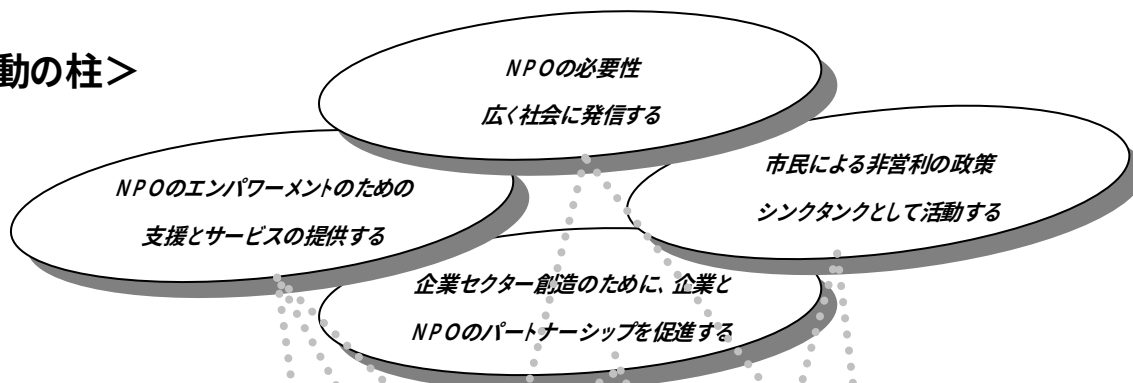
<ミッション>

<組織ミッション>

- NPOの活動基盤強化
- 企業・行政とのパートナーシップ

NPOの活動の発展
市民社会の発展

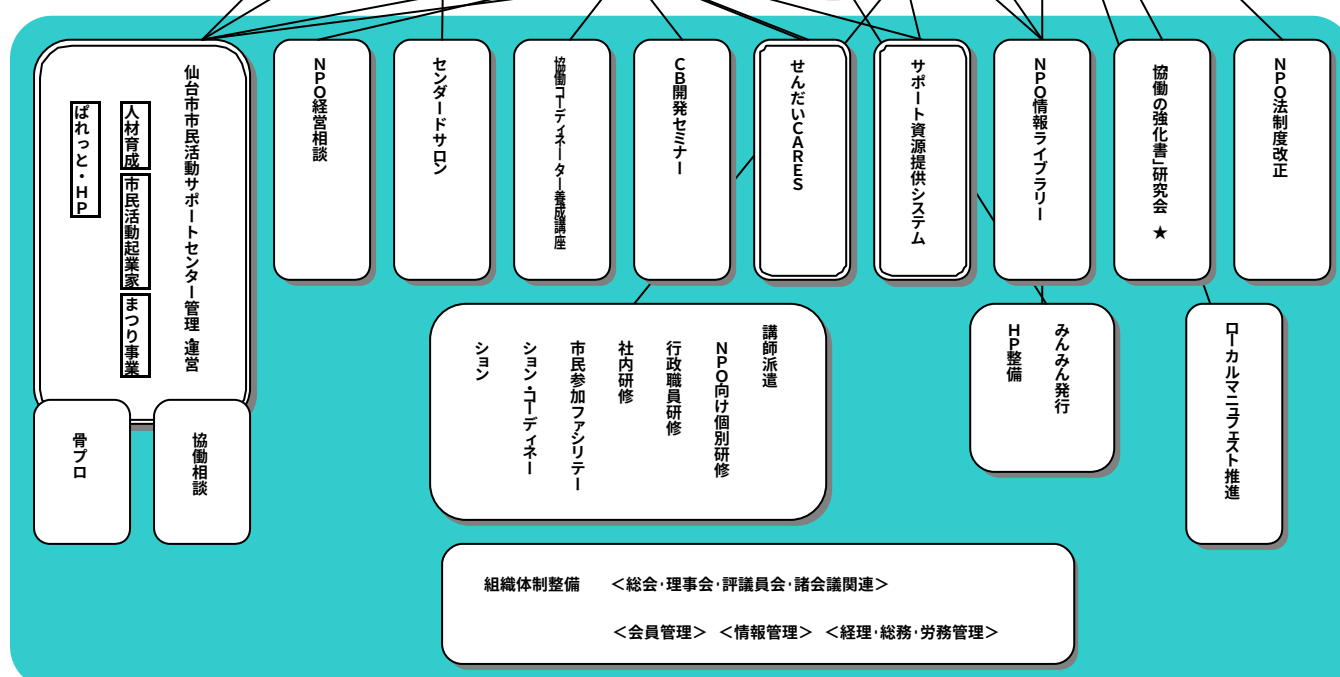
<活動の柱>



<事業・機能>



<個別プログラム>



[会計報告]

2005年度の決算は、大幅な赤字決算になった。執行部として責任を感じているが、その原因は以下のようなものである(36～39ページとあわせてご覧ください)。

まず、年間総収入は、95,252,909円で、前年度決算の総収入 97,587,175 円は下回ったものの、それなりの収入であった。これに前期繰越金 9,555,471 円を加えた、104,808,380 円が収入合計であった。また、事業収入が 2005 年度は 27,024,743 円(前年度は 32,301,375 円)であった。ここで約 500 万円程度のマイナスであるが、これは委託事業の減少である。しかし、その他の収入が増加しているものもあり(講師派遣事業、サポート資源提供システム関連収入、寄付金など)、全体としては 200 万円程度の減少に止まった。

これに対して支出であるが、人件費支出が総額 59,390,813 円であった。これは前年度の人件費総額 55,658,532 円と比較すると 400 万円弱(6.7%)の上昇である。

全体として人件費が上昇した原因のひとつは、業務の引継ぎを目指して余分にスタッフを雇用、人材育成を目指したことである。しかしこれは予定していたものである。またサポートセンターのスタッフの入れ替わりが激しかったことも影響している。スタッフが入れ替わると、研修期間があり、その間、人がタブって引継ぎや研修をしなければならないなど、どうしても人件費負担が二重になる。さらには、サポートセンターの移転対策で業務量の絶対的な増加や移転専門職員と専任理事を置くなど、大幅に経費が増大したことはもっとも大きな原因である。そのため他の委託事業に取り組む時間の確保も難しくなり、収入減をもたらしている。

結果、当期正味財産の減少額が、－4,822,618 円となり、前期正味財産 7,342,964 円を大きく取り崩し、正味財産合計額は、2,520,346 円になった。

これでは日常的な資金繰りに影響が出る危険性があるので、キャッシュフローに注意しながら慎重に運営を進め、再び正味財産を一定額増加させて、安定的な資金繰りを目指したい。

II. 2005年度事業報告

1. 概要

A. 政策提言（アドボカシー）、啓発事業

継続的な活動として全国のNPO／NGOに関する税・法人制度改革連絡会への参加を通して、公益法人制度改革や税・法人制度の改革に向けたアドボカシー活動を続けた。また、数年来のテーマとしてNPOの政策提案力向上のための取り組みを続け、自治体とNPOとの協働環境調査を通して、市民側の協働の手引き書の必要性を痛感し、2006年4月より「協働の強化書」研究会を市民・行政関係者で結成、調査・ヒアリングを通して手引き書作成事業を始めた。また、ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北の結成に参加。仙台市長選、宮城県知事選等でのマニフェスト型選挙を推進し、マニフェスト選挙の浸透に貢献した。

●関連事業：NGO/NPOに関する税・法人制度改革連絡会への参加、ローカルマニフェスト推進、協働環境調査、「協働の強化書」研究会、仙台市「市民活動サポートセンター管理運営・まつり事業・協働相談・骨プロ」、地球環境基金「協働コーディネーター養成講座」、セnderドサロン、各種委員会など

B. マネジメントサポート

自主事業や受託業務を通じて、NPOの活動段階に合わせた「立ち上げ支援」から「マネジメント・運営の講座・相談」まで幅広く実施することができた。特に、協働・会議手法・ソーシャルマーケティング・資金調達などのNPOスタッフの関心が高いテーマでは、好評を博し継続的な開催の要望もあった。加えて、数多くの講師派遣により宮城県内を中心に全国でマネジメント支援を行った。今後は、年間のマネジメントサポート事業の全体像をどう告知していくか、NPOの継続的コンサルティングニーズにどう対応するかが課題である。

●関連事業：経営相談、講師派遣、ドナーの学校、セnderドサロン、仙台市「市民活動サポートセンター人材育成事業・市民活動起業講座・協働相談」、地球環境基金「協働コーディネーター養成講座」、仙台市産業振興事業団「コミュニティビジネス起業家セミナー」など

C. ネットワーキングサポート

2002年よりサポート資源提供システムの人材育成事業としてスタートしたせんだいCARESは、実行委員会形式で実施するようになり2回目となった。その結果、46のNPOが参加し、48社の企業協賛、55の団体・企業の広報協力を得ることができた。他にも、自主事業のセnderドサロン、委託事業では市民活動サポートセンターで開催したカラフルフェスタやコミュニティビジネス起業家セミナー、アレマ新聞、百杜通信他多数の事業を通じて、NPO間であるいはセクターの違う団体同士でつながる、新たな活動のキッカケを生み出すネットワーキングの機会を提供した。

●関連事業：セnderドサロン、せんだいCARES、仙台市「市民活動サポートセンターまつり事業」、各地NPO推進機関との連携など

D. 情報サポート事業

NPOの情報公開拠点として「NPO情報ライブラリー」を運営し4年目。登録団体も約130団体に増え、市民や社会へのNPOのアピールに大きな力になっている。加えて、当センターではタイムリーにホームページや事務局通信「みんな」で実施事業などをお伝えした他、河北新報夕刊「NPO情報室」への定期的な寄稿、せんだいCARESによる地域社会へのNPOのPRなどでも成果をあげた。また、政策提言からはじまった「仙台の情報に背骨を通すプロジェクト：通称骨プロ」は、参加する公共施設が増加傾向で、市民へNPOの周知がより充実してきている。

●関連事業：NPO情報ライブラリー、ホームページ、事務局通信「みんな」、みんな堂での書籍販売、せんだいCARES、河北新報「NPO情報室」への寄稿、各種媒体への寄稿、仙台市「市民活動サポートセンター情報サロン・骨プロ・図書販売」など

E. 調査・コンサルティング事業

調査研究としては、I I H O Eや全国の支援センターとの連携で自治体の協働環境調査を行い、東北六県19自治体を担当した。まだサポートセンター利用者の実態把握を目的にアンケート調査も実施しサービスの向上に役立てた。また行政の各種市民参加型事業のコンサルティングも行い、コミュニティ活動の支援からポイ捨てごみへの取り組みや緑の市民活動の支援まで幅広い支援を行った。行政職員およびNPO関係者対象の研修会への講師派遣も多数行い、質の高いサービスを提供した。

●関連事業：協働環境調査、「協働の強化書」研究会、仙台市「市民活動サポートセンター利用者アンケート調査」、まち美化に関する市民活動推進のための支援事業、クリーン仙台推進員、市民トラストの森、緑の市民ネットワーク、研究会参加各種講師講師・研修派遣など

F. NPOの経営資源の仲介・提供事業

「サポート資源提供システム」の本格運用4年目、その資金提供プログラム「地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）」の運用3年目となる2005年度事業の特徴としては、新たに寄付文化の醸成のための「ドナー（寄付者）の学校」事業に取り組んだ。前年と同様、オフィス什器・備品や消耗品といった「物品等提供」は35団体へ572点、中古パソコンや周辺機器を提供する「パソコン等提供」は41団体へ56点、そして「資金提供＝みんなファンド」36団体へ872万円の3プログラムで資源提供が行われた。年間の実績としては、のべ112団体に約1,136万円相当の支援を実施することができた。

●関連事業：サポート資源提供システム（物品等提供、パソコン等提供、資金提供＝みんなファンド、みやぎNPO夢ファンド、ろうきん地域貢献ファンド、ふくふくファンド）NPO情報ライブラリー、ホームページ、せんだいCARES、ドナーの学校など

2. センターの事業に関する事項

事業名	NPO／NGOに関する税・法人制度改革連絡会への参加
主催	NPO／NGOに関する税・法人制度改革連絡会
世話団体 地域幹事 団体	2005年度世話団体 特定非営利活動法人 NPO事業サポートセンター 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター 特定非営利活動法人 子どもNPO・子ども劇場全国センター シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会 特定非営利活動法人 日本NPOセンター 2005年度地域幹事団体 特定非営利活動法人 NPO推進北海道会議 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター 特定非営利活動法人 市民フォーラム21・NPOセンター 特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター 特定非営利活動法人 NPOくまもと
実施概要	当センターとして、今年度は下記に参加した。 ●学習会 NPO法人に関する制度の動きと今後の方向性について ～認定NPO法人制度の改正と公益法人制度改革の具体化を中心に～ 日 時：2006年3月9日 19:00～20:45 会 場：東京商工会議所 4階 403会議室 参加対象者：連絡会構成団体、連絡会に参加していない各地域の支援センター 参加費：1,000円 内 容：開会あいさつ レクチャー1：認定NPO法人制度の改正について レクチャー2：公益法人制度について レクチャー3：民法改正に伴うNPO法改正の方向性について ●2006年度総会 日 時：2006年6月26日(月) 17:30～19:30 場 所：新東京コンファレンスコーナー(東京都千代田区丸の内) 内 容：1. 開会 2. 議長の選出 3. 審議事項 第1号議案 2005年度の活動報告について 第2号議案 2005年度の会計報告について 第3号議案 2006年度の活動計画について 第4号議案 2006年度の予算について 第5号議案 世話団体ならびに地域幹事団体の選任について 第6号議案 その他 4. 閉会

事業名	ローカルマニフェスト推進運動への参加	
主催	ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北 (LM東北)	
企画・実施	ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北 (LM東北)	
目的	これまでの地盤、看板、かばん、情実にもとづく選挙から脱却し、明確な政策の提示による選挙を行うことによって、有権者のみならず、政治家、さらに行政の政治意識を変革していくことを目的に、マニフェスト型選挙を行っていくことが求められている。センターとしても地域民主主義の発展のためにマニフェスト型選挙についてより一層の推進を図るべきとの立場から、ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北の結成に賛同して参加、その活動に協力している。	
成果	全国的に大変注目された仙台市長選挙でのローカルマニフェスト型公開討論会の開催をはじめ、2回(4月の補欠選挙、10月の県知事選挙)の合同個人演説会の場を設定するなど有意義な活動が展開をできた。また、所期の目的の一つ、有権者にローカルマニフェストを認知させることもできたと考えている。	
実施概要	●仙台市長選立候補予定者公開討論会 日時:平成17年7月14日(金) 午後6時15分～午後9時15分 場所:アエル(仙台市情報・産業プラザ) 5階多目的ホール 主催:ローカル・マニフェスト東北 / (社) 仙台青年会議所 / (社) 泉青年会議所 / 仙台政治をおもしろく語る会 / 伊藤、梅原、小野寺、鎌田、菅間、佐藤各陣営 ●宮城県知事選挙立候補者合同個人演説会 日時:2005年10月19日(水) 開場18:00～開始18:30～ 場所:仙台市民会館 小ホール ●シンポジウムinふくしま “ローカル・マニフェストを考える” 日時:2005年10月29日(土) 場所:コラッセふくしま 主催:ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北、自治体学会東北	

事業名	行政等による各種委員会、審議会への委員委嘱協力 : 35件
-----	-------------------------------

事業名	NPO・市民活動団体向け研修・講師派遣 : 89件
	NPO・市民活動団体向け研修受入 : 1件
	企業向け内部研修・講師派遣 : 3件
	自治体職員向け研修・講師派遣 : 36件
	研究会参加 : 1件
	大学非常勤常勤講師 : 3件

*上記詳細は、当センターホームページ「センター組織概要 事業報告」をご参照ください。
なお、掲載は2006年9月下旬となりますので、ご了承願います。

事業名	「第2回都道府県、主要市におけるNPOとの協働環境に関する調査」
主催	IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] + 全国の支援センター
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	1. 自治体とNPOとの協働を拡充しようという機運の高まりを受け、協働を産み育てる環境がどれだけ整っているかについて調査し、計21問の切り口から、協働環境整備の現況を明らかにする。 2. 調査結果は広く公表し、協働の次へのステップづくりの参考資料として、各地で活用されることをめざす。 3. 自治体職員研修の一環として、広く自治体の協働環境の実体比較体験をしてもらう。
成果	1. 東北6県と県庁所在都市および主要都市19ヶ所を調査対象に選び調査を行ったが、18ヶ所の回答を得て分析に生かすことが出来た。 2. 調査2年目ということで比較的スムーズに調査ができた。またその成果については、2006年1月にIIHOEと共催で仙台で「報告会」を開催してNPO、自治体職員と共有した。また2月には花巻市で北東北3県を対象とした「報告会」がIIHOEと地元団体共催で開催、協力した。 3. 多賀城市職員研修の一環として、二人の職員が業務を担当、各地の自治体の実態に触れてもらうきっかけになり、また自らの自治体の政策立案にも参考にもらった。
実施概要	1. 期 日 平成17年6月～10月(概ね4ヶ月間) 2. 対 象 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 青森市、弘前市、八戸市、盛岡市、北上市、仙台市、石巻市、秋田市、 山形市、鶴岡市、福島市、郡山市、いわき市 (鶴岡市は調査不能により途中で断念) 3. 内 容 調査は主に次の事項を明らかにすることを目的とし、6 [段階評定(指標に基づく評定)] により行った。 (1)協働をしくみにするためのプロセスについて (2)しくみが効果的に活用されるための整備について (3)協働のパートナーと共に学び互いが育つしくみについて (4)協働事業の評価・ふりかえりについて (5)ウェブサイトの活用について (6)協働事業の成功事例について(記述式)

事業名	「協働の強化書」プロジェクト
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター（宮城県共同募金会配分金申請事業）
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	協働ブーム、指定管理者制度の導入など行政とNPOの関係は大きく変化している。しかし情報不足など市民・NPO側の協働理解はまだ不十分であり、さまざまな問題も起きている。そこで、市民活動団体・行政、2つのセクターが提携・協働して研究会を組織して1年間活動することで、市民による市民のための協働の手引書「協働の強化書」を発行し、市民・NPOの力量形成に寄与したい。
成果	昨年より準備を重ね、1月の協働環境調査報告会で正式に呼びかけて発足したものであり、2006年4月より始まったプロジェクトである。従ってその成果は、06年度末まで待たなければならないが、研究会にはNPOと行政側から熱心な参加があり、当面は一年間の共同研究体制が無事構築できていることは大きな成果と言える。
実施概要	●本プロジェクトは、実際に協働に取り組んできたNPOの人たちと、その相手方である自治体職員及び企業人を中心に「協働の強化書」研究会を組織し以下の活動を行なう。 1) 研究会の開催 概ね1ヶ月に1回ずつ1年にわたって開催し、参加市民団体・行政・企業の持つ情報を交換し、連絡・協議を行なう。 2) アンケートによる協働の実態と意識調査 宮城県内のNPO法人および主要な市民活動団体を対象に郵送によるアンケート調査を行い、協働の実態と協働に対する意識に関する情報の収集と整理を行い、研究会の検討材料として提供する。 3) ワーキンググループによるヒアリング調査 対象を10例程度選定し、ワーキンググループごとに分担を決め、宮城県内の先進的事例の詳細調査と情報の整理を行なう。 4) ケーススタディの実施 ヒアリングした事例をもとに、研究会参加者による事例分析（ケーススタディ）を実施する。 5) 報告書「協働の強化書」の編集と発行 調査研究の報告書として市民のための協働の手引書、「協働の強化書」を作成し、発行することで、多くのNPOと自治体・企業関係者の協働理解を促進する。 ●年間実施スケジュール 2006年 4月12日 ・第1回研究会 運営方法の策定とヒアリング対象事業の検討 ・研究会参加メンバーの決定 5月17日 ・第2回研究会 アンケート・ヒアリング実施要領の策定 6月14日 ・第3回研究会 ヒアリングのためのワーキンググループ発足とアンケート調査票策定 ・アンケート調査実施・回収・集計 7月12日 ・第4回研究会 アンケート実施結果概要報告 ・ヒアリング実施 8月23日 ・第5回研究会 アンケート結果報告、ヒアリング報告 ・ヒアリング実施 9月13日 ・第6回研究会 ヒアリング報告、ケーススタディ実施要領の策定 ・ヒアリング実施 10月11日 ・第7回研究会 ヒアリング報告、ケーススタディ 11月15日 ・第8回研究会 ケーススタディ 12月13日 ・第9回研究会 ケーススタディ 2007年 1月17日 ・第10回研究会 「協働の強化書」編集方法策定 ・「協働の強化書」編集 2月14日 ・第11回研究会 「協働の強化書」編集作業報告 3月14日 ・第12回研究会 研究会活動の成果の確認 ・「協働の強化書」発行

事業名	地球環境市民大学校研修業務北海道・東北ブロック 「環境保全協働コーディネーター養成講座(平成17年度)」	
主催	独立行政法人環境再生保全機構	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	持続可能な社会の形成のためには、各主体間のパートナーシップが欠かせず、協働の取り組みを促進して行くためにも協働コーディネーターの重要性が高まっている。このような状況を踏まえ、本講座ではNPO、行政、支援センターの各セクターにおいて、参加者が以下のような協働コーディネーターの役割を果たせるよう導くことを目的とする。 ・ NPO…行政の仕組みを知り、プログラムの提案が作れ、交渉し、協働で実行できる。 ・ 行政…NPOをよく知り、課題の解決策を共通で練り、いっしょに実行できる。 ・ 支援センター…NPOと行政をよく知り、両者のコーディネートができる。	
成果	・ それぞれ違うタイプの事例を集めることができ、またその事例と講座内容とのバランスもうまく配置することができた。参加者のアンケート結果でも講座内容に対する評価はほぼ全てが「とても良かった」「良かった」との回答で、参加者にとって満足度の高い講座となり、事業目的の達成はできた。 ・ 北東北3県の環境パートナーシップ組織と協力し、円滑な講座運営をすることができた。参加者アンケートでの講座運営に関する評価は約6割が「とても良かった」、約3割が「良かった」との回答で、参加者にとっても満足のいく講座運営ができた。 ・ 参加型で講座を実施することで、参加者は講座に一体感を持って学習することができた。また、交流会を設けることで参加者同士の連携を深めることができた。 ・ 北東北のパートナーシップ組織の実情／課題について、各参加者が共有できた。 ・ 個人および団体が持つノウハウの交換が進んだ。 ・ 行政とNPOの双方が参加したことで、行政とNPOの違いや特性を再確認する機会になった。	
実施概要	1. 講座の特徴 ・ 協働の学びに効果的な事例を通して学ぶ ・ 北東北の環境パートナーシップ組織4団体の協力を得て、地域の実情を踏まえた内容で行う ・ 協働の講義や行政職員研修において日本各地で豊富な講義数と実績を誇る講師で行う ・ 講義を参加型で行い、また、交流の場を設けることで、北東北の環境保全ネットワークを強化する 2. 講座の構成 ・ 協働の歴史と現状 ・ 協働の仕組み(行政・市民・NPO・企業)と協働コーディネーターの役割(ファシリテーション、企画、提案、交渉、説明、合意、協力・協働組織、実施、評価、継続) ・ ファシリテーション手法(講座の進行の中でファシリテーションの技法を示しながら行う) ・ コミュニティにおける協働の事例から学ぶ(合意形成、プロジェクトの企画・実施・評価) ・ ネットワークとパートナーシップの構築 3. 講座内容とタイムスケジュール ①11月26日(土) 10:30～10:40 開会、あいさつ 10:40～12:00 セッション1 協働の歴史と現状そして未来、協働の理解の仕方と考え方 13:00～15:20 セッション2 ゲストによる協働実践報告① 事例①おおせっからんとと三戸地方農林事務所 事例②子吉川市民会議と秋田河川国道事務所 15:30～17:00 セッション3 協働の仕組みとネットワーク①、協働のパートナーシップ構築① ②11月27日(日) 10:00～12:00 セッション4 ゲストによる協働実践報告② 事例③環境パートナーシップいわてと岩手県 13:00～14:30 セッション5 協働の仕組みとネットワーク②、協働のパートナーシップ構築② 14:40～15:50 セッション6 協働でのファシリテーション手法 16:00～16:30 (まとめ) NGO/NPOと行政との協働	

事業名	コミュニティビジネス起業家セミナー 企画・実務業務	
主催	財団法人仙台市産業振興事業団	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	地域の課題解決や地域の生活創造などの事業を行うコミュニティビジネス事業者の創出をねらいとする。入門編では潜在的事業者の掘り起こしを、起業編では起業を支援するためにセミナーを実施する。	
成果	1. 入門編の開催で、コミュニティビジネス（以下、CB）への関心ある層を掘り起こすことができた。講座では、法人格などの主体やテーマが多様であるCBの事業イメージを提示することができた。 2. 仙台市産業振興事業団とせんだい・みやぎNPOセンターが事業を＜協働＞で実施することにより、既存の講座や支援メニューを活用が進み、目的を達成することができた。 3. 仙台市産業振興事業団が男女共同参画財団と共催し講座を実施し、さらにCBと連携することで、女性のCB事業者の開拓につながった。 4. 継続的に一定のスタッフが支援することで、プチ企画の実践や事業プランの作成において効果の高い支援を行うことができた。 5. 継続して事業を実施することで、過去の受講生との交流や事業マッチングを行うことができた。CBの層が厚くなることにより、起業に結びつく参加者を増やすことができた。 6. 参加型で講座を実施することで、交流と情報の交換が進んだ。講座の中で、書く、話す、説明する、プレゼンテーションを実施したりすることで、その力を磨くことにつながり、起業への一歩を踏み出すことにつながった。	
実施概要	1. 入門編（7/19、7/26） 受講生101名 申込者159名 定員80名 内容（各回共通） ①講義：コミュニティビジネスのはじめかた ②ゲストの実践紹介 ③事業アイデアを考えてみよう ④交流会 会場：エル・ソーラ仙台 大研修室 開催時間：18時半～21時半 7/19：テーマいろいろ編 「地域や暮らしにこんな仕事があったらいいな」の事業づくり 受講生55名 申込者76名 定員40名 7/26：起業人いろいろ編 若者・女性・中高年の「思い・経験」が生かせる仕事づくり 受講生46名 申込者83名 定員40名 2. 起業編（9～3月） 受講生28名 申込者 34名 定員20名 第1回（9/6） CB概論+思いの棚卸+ワークショップ＜事業理念の構築＞ 第2回（9/13） 具体事例の研究+事業の骨格の確立+ワークショップ ◇個人カウンセリング 1名あたり×約1時間（9/20,9/24,9/26,9/27） ◇プチ企画実践（各自事業に役立つ実践を実施する。）9月から10月までの2ヶ月間 第3回（11/8） CBの経営資源と財務+経営ノウハウ+ワークショップ ◇交流会（事業見本市） 内容：特別セミナー「コミュニティビジネス 成功のための7つのポイント」 講師：川村志厚氏 経営デザイン研究所代表 受講生による事業プランのプレゼンテーション 交流会 第4回（11/29） CBの経営資源と財務+経営ノウハウ+ワークショップ ◇個人カウンセリング 1名あたり×約1時間（1/16,17,18） 最終事業モデル案の提出 ※受講生交流と支援強化のために、受講生メーリングリストを設置した。 また、受講生へのアドバイス・紹介・相談などのサポートについては3月まで実施した。	

事業名	センダードサロン	
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	NPOの活動上の課題の一つである「ネットワーク形成」を促進し、交流・力づけのための場づくりを行うことで、NPOを支援し地域課題の解決につなげる。 この背景としては、せんだい・みやぎNPOセンタースタッフは、中間支援の業務を通じ各テーマ別NPOの動向や社会・地域状況を把握しやすい状況にある。そこで、各スタッフが常日頃から感じている課題解決の場をサロンという形で提供することにより、NPOのネットワーク形成をバックアップするというもの。	
成果	1. NPOのネットワーク化が進んだ。 2. せんだい・みやぎNPOセンターの活動内容をNPOや市民に知ってもらうができた。 3. NPOに関心ある市民・企業の方にも参加いただくことで、NPOの認知度を上げることができた。 4. 市民活動に係わる人たちの顔が見え、情報交換が活発になった。 5. NPOの力づけになった。	
実施概要	2006年6月のセンダードサロン 6月22日(木) 出席者:24人 「地域の住みやすさ・喜びを倍にする！～町内会とNPO・連携しましょう会～」 2006年5月のセンダードサロン 5月24日(水) 出席者:24人 「第1回 NPOリンピック！」 2006年4月のセンダードサロン 4月20日(木) 出席者:19人 「＜農＞と＜子ども＞のコラボレーション」 2006年3月のセンダードサロン 3月17日(金) 出席者:25人 「ソーシャル・マーケティングのすすめ」 2006年1月のセンダードサロン 1月27日(金) 出席者:44人 「新春NPO大交流会」 2005年12月のセンダードサロン 12月12日(月) 出席者:25人 「私のライフワークとNPO 私がNPOの理事をやる理由」 2005年11月のセンダードサロン 11月28日(月) 出席者:10人 「子どもを守るNPO大集合」 2005年10月のセンダードサロン 10月17日(月) 出席者:19人 「NPOのための指定管理者情報交換会」 2005年9月のセンダードサロン 9月27日(火) 出席者:17人 「～忙しいNPOスタッフに、効く＆聞く～心と体のセルフコントロール」 2005年8月のセンダードサロン 8月31日(水) 出席者:19人 「仙台のインキュベート施設を考える」 2005年7月のセンダードサロン 7月28日(木) 出席者:19人 「NPOスタッフのための”すぐ使える会議のコツ”」	

事業名	NPO経営相談																																				
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター																																				
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター																																				
目的	NPO・市民活動団体の運営上の課題解決をめざす。																																				
成果	加藤代表理事による経営相談は年間14件の相談があった。多様なクライアントの相談に的確に答え、支援的な関わりを行うことで、新規起業や活動のレベルアップに貢献した。																																				
実施概要	○アドバイザー：加藤哲夫 ○相談料：2500円（会員500円割引） ○実施状況 <table><tr><td>・ 7/25 (月)</td><td>2件 (NPO 2)</td><td>: 2名</td></tr><tr><td>・ 8/25 (木)</td><td>2件 (NPO 2)</td><td>: 2名</td></tr><tr><td>・ 9/21 (水)</td><td>2件 (NPO 1／行政 1)</td><td>: 2名</td></tr><tr><td>・ 10/18 (火)</td><td>1件 (NPO 1)</td><td>: 1名</td></tr><tr><td>・ 11/18 (金)</td><td>1件</td><td>: 1名</td></tr><tr><td>・ 12/20 (火)</td><td>2件 (NPO 1／行政 1)</td><td>: 2名 *別日に1件1名</td></tr><tr><td>・ 1/11 (水)</td><td>1件</td><td>: 1名</td></tr><tr><td>・ 2/13 (月)</td><td>0件</td><td></td></tr><tr><td>・ 3/17 (金)</td><td>2件</td><td>: 2名</td></tr><tr><td>・ 4/21 (金)</td><td>0件</td><td></td></tr><tr><td>・ 5/19 (金)</td><td>0件</td><td></td></tr><tr><td>・ 6/21 (水)</td><td>0件</td><td></td></tr></table> *14件 (NPO 7／個人 5／行政 2) : 13名	・ 7/25 (月)	2件 (NPO 2)	: 2名	・ 8/25 (木)	2件 (NPO 2)	: 2名	・ 9/21 (水)	2件 (NPO 1／行政 1)	: 2名	・ 10/18 (火)	1件 (NPO 1)	: 1名	・ 11/18 (金)	1件	: 1名	・ 12/20 (火)	2件 (NPO 1／行政 1)	: 2名 *別日に1件1名	・ 1/11 (水)	1件	: 1名	・ 2/13 (月)	0件		・ 3/17 (金)	2件	: 2名	・ 4/21 (金)	0件		・ 5/19 (金)	0件		・ 6/21 (水)	0件	
・ 7/25 (月)	2件 (NPO 2)	: 2名																																			
・ 8/25 (木)	2件 (NPO 2)	: 2名																																			
・ 9/21 (水)	2件 (NPO 1／行政 1)	: 2名																																			
・ 10/18 (火)	1件 (NPO 1)	: 1名																																			
・ 11/18 (金)	1件	: 1名																																			
・ 12/20 (火)	2件 (NPO 1／行政 1)	: 2名 *別日に1件1名																																			
・ 1/11 (水)	1件	: 1名																																			
・ 2/13 (月)	0件																																				
・ 3/17 (金)	2件	: 2名																																			
・ 4/21 (金)	0件																																				
・ 5/19 (金)	0件																																				
・ 6/21 (水)	0件																																				

事業名	せんだいCARES2005	
主催	せんだいCARES2005実行委員会	
共催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	せんだいCARES2005は、2003年よりまちづくりキャンペーンとして毎年11月の約1ヶ月間開催している。仙台市内で活動しているNPOの活動を「仙台のお世話をしている(CAREをしている)」と考え、NPOと一緒に企業市民や一般市民を巻き込んで一緒にCAREしましょうというまちづくり企画。	
成果	1. 参加NPO46団体、協賛企業48社、広報協力130団体・企業となり、パンフレットも4万部配布し、広範な広報展開ができた。 2. 資金調達面では、せんだいCARESを応援するチケット「ドネーションチケット(1枚:1000円)」を作成し、実行委員と参加NPOと一緒に運営資金を約50万円近く集めることができた。 3. 初めての実行委員企画「その日、せんだいはゴミのない街になる」プロジェクトを仙台市環境局との協働により実施、約170名近くの市民が参加を得ることができた。	
実施概要	●事業名:せんだいCARES2005 期 間:2005年11月1日(火)～12月3日(土) 場 所:仙台市内各所 対 象:仙台市民 開催イベント数:53(市民活動カラフルフェスタ、エル・パークフォーラム含む) ○イベント名:せんだいCARES2005オープニングイベント 日 時:2005年11月5日(土)13:00～17:00 場 所:せんだいメディアテーク・オープンスクエア 対 象:仙台市民(NPOの活動やボランティアに関心のある方など) 参加者数:1500名 成 果:☐市内で活動する35のNPOが一同に会することとなり、団体同士の情報交換の場となった。 ☐様々なテーマのNPOに関する情報をチラシやパンフレットの配布により不特定多数の市民に提供することができた。 ☐コミュニティFMの収録やステージパフォーマンスを行うことで、メディアテークに訪れる市民の関心を集めることができた。 ○イベント名:「その日、せんだいはゴミのない街になる」プロジェクト 日 時:2005年11月19日(土)9:00～12:00 場 所:勾当台公園 対 象:まち美化活動に関心のある仙台市民や企業・NPO 参加者数:170名 成 果:☐仙台市環境局との協働事業にすることで広報や企画のノウハウなどの協力を得ることができた。 ☐まち美化活動をテーマにすることで、企業の社会貢献活動を推進するきっかけを作ることができた。 ☐まち美化活動をすることで環境やポイ捨てごみの問題について関心を持つ機会と交流の場を提供できた。 ○イベント名:せんだいCARESフィナーレ 日 時:2005年12月3日(土)16:00～18:00 場 所:仙台市市民活動サポートセンター・セミナーホール 対 象:せんだいCARES参加NPO・協賛企業・実行委員・仙台市民 参加者数:20名 成 果:☐せんだいCARES2005についての振り返りができ、次年度の事業への提案をえることができた。 ☐セクターの違う参加者どうしの交流を促進する機会を提供できた。	

事業名	NPO情報ライブラリー	
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	NPOや市民活動団体が、多くの人々に認知され、地域社会との連携を深めていくためには、自分たちの活動の情報を積極的に公開していくことが大切である。しかし、多くの人に活動の情報を発信していくためには、コストや人手がかかる。 「NPO情報ライブラリー」は、NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりして、地域の市民・企業など社会一般に広く公開・発信する情報発信支援事業である。 ライブラリーに登録いただいた情報は、団体ごとにファイリングされ、せんだい・みやぎNPOセンター事務局内で公開される他、一部の情報はインターネット上でも広く公開される。	
成果	前年度に引き続き、ファイリングによる団体資料公開（センター事務局内）とインターネットによる情報公開を組み合わせた団体情報発信支援を行った。 2006年6月末現在の登録団体数は144団体（前年同時期128団体）となった。サポート資源提供システムによる資源提供や、地域貢献サポートファンドみんなによる資金提供により、新規登録団体が大幅に増加したのに対し、情報更新が行われず登録削除となった団体も多く、結果的に登録は16団体の増加にとどまった。 また、長期間更新のないNPOに対して、前年度同様に情報更新の呼びかけを積極的に実施した結果、更新率（おおむね1年半以内に情報更新を実施している団体の割合）は、年度を通じて70%～80%台を保つことができ、質の良い情報発信を行うことができた。 ホームページへのアクセス件数は120,623件（ページビューカウント）となり、前年度の56,570件（同）と比べて2.1倍の伸びとなった。今後とも、より多くの方々に地域のNPOの情報を届けていくことができるように、情報の質・量の確保に努めたい。	
実施概要	○NPO情報ライブラリー http://www.minmin.org/Library/ ○ライブラリー登録団体一覧 http://www.minmin.org/npo/n-index.php	

事業名	ホームページによる情報発信																																																					
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター																																																					
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター																																																					
目的	せんだい・みやぎNPOセンターの活動を幅広く社会に発信する。																																																					
成果	傾向としては、センタートップページやセンターの各種情報へのアクセス件数は前年度比1.1倍程度の増加であった一方、NPO情報ライブラリーへのアクセスは前年度比2.1倍と大きく増加した。サイト全体としては前年度比で、総訪問者数が1.6倍、総閲覧ページ数が1.3倍と増加する結果となった。																																																					
実施概要	前年度に引き続き、センター主催のイベントや講座の案内・報告、サポート資源提供システムからの資源提供案内といったフロー情報や、センター概要、活動報告・記録、収支決算、定款、役員名簿、NPO情報ライブラリー登録情報などといったストック情報を随時掲載した。 (随時更新) トップページ (http://www.minmin.org/) に設置しているカウンターによるアクセス数は、以下の通りとなった。 年度内のアクセス数 36,052件 (1日あたり約98.8件／日) 累積アクセス数 145,724件 (2000年4月より) トップページへの1日あたりのアクセス数は、 2000年度 (約23件／日)、2001年度 (約46件／日)、2002年度 (約60件／日)、 2003年度 (約81件／日)、2004年度 (約87.8件／日) と伸び率はやや鈍化しているものの、増加を続けている。 また、サーバーのアクセス解析により、 (1) 月別訪問者数 (延べ)、閲覧されたページ数 (延べ)、 (2) ページの内容別の閲覧ページ数 (年間延べ) を集計したのが下表である。 <table><tr><th></th><th>のべ訪問者数</th><th>閲覧されたのべページ数</th></tr><tr><td>2005/7</td><td>12,299</td><td>34,543</td></tr><tr><td>2005/8</td><td>13,518</td><td>37,393</td></tr><tr><td>2005/9</td><td>13,305</td><td>37,152</td></tr><tr><td>2005/10</td><td>15,573</td><td>42,508</td></tr><tr><td>2005/11</td><td>14,297</td><td>41,127</td></tr><tr><td>2005/12</td><td>13,368</td><td>35,341</td></tr><tr><td>2006/1</td><td>16,636</td><td>47,261</td></tr><tr><td>2006/2</td><td>15,938</td><td>38,936</td></tr><tr><td>2006/3</td><td>23,137</td><td>48,440</td></tr><tr><td>2006/4</td><td>18,681</td><td>43,444</td></tr><tr><td>2006/5</td><td>20,196</td><td>47,305</td></tr><tr><td>2006/6</td><td>20,573</td><td>45,483</td></tr><tr><td>合計</td><td>197,521</td><td>498,933</td></tr></table> <table><tr><th></th><th>閲覧ページ数</th></tr><tr><td>トップページ</td><td>129,093</td></tr><tr><td>NPO情報ライブラリー</td><td>120,623</td></tr><tr><td>センター団体紹介</td><td>11,977</td></tr><tr><td>サポート資源提供システム ・みんみんファンド</td><td>27,885</td></tr></table> (左) 各月のサイト「のべ訪問者数」と閲覧されたのべページ数 (上) ページ内容ごとの閲覧のべページ数の集計			のべ訪問者数	閲覧されたのべページ数	2005/7	12,299	34,543	2005/8	13,518	37,393	2005/9	13,305	37,152	2005/10	15,573	42,508	2005/11	14,297	41,127	2005/12	13,368	35,341	2006/1	16,636	47,261	2006/2	15,938	38,936	2006/3	23,137	48,440	2006/4	18,681	43,444	2006/5	20,196	47,305	2006/6	20,573	45,483	合計	197,521	498,933		閲覧ページ数	トップページ	129,093	NPO情報ライブラリー	120,623	センター団体紹介	11,977	サポート資源提供システム ・みんみんファンド	27,885
	のべ訪問者数	閲覧されたのべページ数																																																				
2005/7	12,299	34,543																																																				
2005/8	13,518	37,393																																																				
2005/9	13,305	37,152																																																				
2005/10	15,573	42,508																																																				
2005/11	14,297	41,127																																																				
2005/12	13,368	35,341																																																				
2006/1	16,636	47,261																																																				
2006/2	15,938	38,936																																																				
2006/3	23,137	48,440																																																				
2006/4	18,681	43,444																																																				
2006/5	20,196	47,305																																																				
2006/6	20,573	45,483																																																				
合計	197,521	498,933																																																				
	閲覧ページ数																																																					
トップページ	129,093																																																					
NPO情報ライブラリー	120,623																																																					
センター団体紹介	11,977																																																					
サポート資源提供システム ・みんみんファンド	27,885																																																					

事業名	事務局通信 みんな 発行	
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	せんだい・みやぎNPOセンターの会員や評議員などの皆さんへ、事務局での事業進捗やNPOに関連する情報を報告し、コミュニケーションを図る。	
成果	1. せんだい・みやぎNPOセンターの事業やNPO支援の状況についての情報を、タイムリーに伝えることができた。 2. 執筆にあたっては、理事やスタッフが原稿を担当し、その時の事業や社会での出来事を的確に伝えることができた。 3. せんだい・みやぎNPOセンターについての理解を促進させることができた。	
実施概要	事務局通信みんな 発行 配布対象: 会員・評議員・サポート資源提供システム運営委員・NPO支援センター等 発行頻度: 2ヶ月に1回、奇数月発行 価 格: 無料 内 容: 全8ページ 理事エッセー、事業報告(特集・コラム)、事務局長エッセー、本紹介、事務局活動報告、新規会員紹介、会員更新紹介、寄付者／協力者紹介、催事案内等) 発行・編集体制: 3名(せんだい・みやぎNPOセンタースタッフ) レイアウト・デザイン: 当センタースタッフがレイアウト、白紙に黒インクで簡易印刷 発行部数: 約400部 vol.46: 2005年7月27日発行 内容: せんだい・みやぎNPOセンター4月からの事業展開 理事エッセー: 横山英子 vol.47: 2005年9月28日発行 内容: 総会記念講演報告 理事エッセー: 木村正樹 vol.48: 2005年11月30日発行 内容: ドナーの学校報告 理事エッセー: 黒澤学 vol.49: 2006年1月21日発行 内容: せんだい・みやぎNPOセンターへのメッセージ 理事エッセー: 大滝精一 vol.50: 2006年3月25日発行 内容: 「協働の強化書」研究会 理事エッセー: 新川達郎 vol.51: 2006年5月30日発行 内容: せんだい・みやぎNPOセンター2006年5月からの主な活動紹介 理事エッセー: 田代久美	

事業名	みんな堂（書籍販売部）
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	NPO・市民活動に関心のある方が、関連資料に気軽にアクセスしていただけるように、 図書の販売を行っている。
実施概要	○取扱書籍 45種 ・センター関連書籍 ・運営・マネジメント関連書籍 ・NPO基礎関連書籍 ・協働関連書籍 ・その他 ＊ホームページより「書籍申込フォーム」をダウンロードしていただき、 ファクシミリにて注文可能。 

事業名	まち美化に関する市民活動のための支援事業業務
委託者	仙台市(環境局廃棄物管理課)
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	本事業は7年目を迎え、2005年は、「アレマ隊員養成講座」にかわる新企画として「まち美化達人・お役立ち連続セミナー」の実施や、アレマ新聞の発行時期を講座やキャンペーン開始と連動させることで、まち美化活動に参加する市民の取組みを幅広く推進する。
成果	「アレマ隊員養成講座」を出前講座のみで実施することに変更し、新たに「まち美化達人・お役立ち連続セミナー」を実施した。アレマ隊員の枠を越えて「まち美化」に関わるすべての人を対象に呼びかけたことで反響が大きくなり、初めての取り組みではあったが定員を上回る参加者状況となった。
実施概要	1. 全市一斉「ポイ捨てごみ」調査・清掃キャンペーンの実施 春：平成17年5月21日～平成17年6月12日 参加人数：3,008人 秋：平成17年9月24日～平成17年10月17日 参加人数：3,035人 (キャンペーンの企画・調整、報告書の作成) 2. アレマ隊員養成出前講座の実施 ・平成17年7月19日：仙台市立将監東中学校 体育館 (企画・講師・アドバイス) 3. まち美化達人になるためのお役立ち・連続セミナーの実施 ・平成18年2月18日 参加人数：43人 3月4日 参加人数：41人 3月18日 参加人数：36人 ・仙台市役所北庁舎5階会議室 (企画・講師・コーディネート) 4. 仙台まち美化ネットワーク通信(アレマ新聞)の発行 ・平成17年9月・平成18年4月(但し制作は18年3月) (企画・取材・原稿作成・編集・レイアウト)

事業名	クリーン仙台推進員平成17年度グループ学習会運営業務
委託者	仙台市(環境局廃棄物管理課)
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	地域で起こっているごみ問題について整理し、問題解決に向けた市民PRの手法等を学習する事により、クリーン仙台推進員のスキルアップを図るとともに推進員間のネットワーク形成を目指す。
成果	1. 今年度から研修プログラムを強化した。 2. 参加市民の表現力、広報力、問題解決力は確実に増進している。 3. 環境事業所職員の研修にも貢献した。 4. クリーンメイト制度の導入の成果が上がっている。 5. 自主活動グループがさらに成長！
実施概要	第1回グループ学習会 日時:平成17年9月14日(水) 午後1時30分～3時30分 場所:仙台市役所二日町仮庁舎 7階 会議室 参加:65人 内容:「疑問と悩みの大相談会の巻」 ★日頃の活動の疑問や悩みを出し合って、互いに解決してしまおう！ 第2回グループ学習会 日時:平成17年10月19日(水) 午後1時30分～3時30分 場所:仙台市役所上杉分庁舎 5階 第3会議室 参加:58人 内容:「取り組みの方法を考えようの巻 その1」 ★取り組みを必要とする問題を地域で解決していくためのノウハウを学ぼう！ 第3回グループ学習会 日時:平成17年11月24日(木) 午後1時30分～3時30分 場所:仙台市役所上杉分庁舎 5階 第3会議室 参加:52人 内容:「取り組みの方法を考えようの巻 その2」 ★「ご近所の底力」的問題解決力をみんなで身につけよう！ 第4回グループ学習会 日時:平成17年12月1日(木) 午後1時30分～3時30分 場所:仙台市役所上杉分庁舎 5階 第3会議室 参加:43人 内容:「伝える力を増やそうの巻」 ★ポスター、回覧板、チラシなどを使って地域の人々に伝える力を強化します！ 第5回グループ学習会 日時:平成18年1月10日(火) 午後1時30分～3時30分 場所:仙台市役所本庁舎 8階ホール 参加:推進員42人+クリーンメイト等14人 内容:「一人一人が主役ですの巻」 ★半年間の活動を互いに発表・報告しあって、ノウハウや勇気の共有を図ろう！ 成果と今後の課題・提案 前年度の延べ参加人数203人に対して、本年度のグループ学習会の延べ参加人数は260人+クリーンメイトその他で14人、合計274人であった。委嘱初年度ということと、複数回の参加者より、初めての参加者を優先した結果、充分な規模の参加者を得てグループ学習会を行う事ができた。今後の取り組みへの提案をまとめると、以下のよう考えられる。 (1) 努力して成功する推進員と活動できない推進員の二極化対策の必要性。 先日行われた「まち美化達人セミナー」でも見られたが、今後、このような取り組みが進むと、他の推進員の成功ケースに学び、自ら動き、一定の成果をあげ、それを発表し、他の推進員・市民に影響を与えようと努力する推進員と、どうせダメ、難しいと諦める推進員の二極化が目立つようになるだろう。(皆があまり成功していないときは、二極化にならない。)なので、より適切な対策を考える必要がある。 (2) 実践的なノウハウとツールを紹介する冊子、ビデオ、DVDの制作と配布。 そのためには、とにかく簡単に理解ができて、やってみる気にさせる実践的なノウハウとツールを、全推進員に紹介することが絶対に必要である。実際に連続講座を受講できる推進員は限られており、多数の困っている推進員に対するサポートとして、適切な問題解決のための情報提供がもっとも望まれている。 (3) 簡略化した形での、グループ学習会の各区単位の開催 もう少し、地域の問題解決のために、地域単位での開催が望まれることは言うまでもない。地域の推進員さんとメイトさんたちに適切な情報提供を行うと共に、情報交換の広場としての役割を創出すべきである。そのために講師人材の育成が課題である。

事業名	平成17年度「市民トラストの森」企画運営業務委託
委託者	仙台市(建設局緑化推進課)
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	市所有の保存緑地で平成16年度に策定した「市民による森づくりプラン」に基づき「市民の森講座&フィールドワーク」を実施しながら、森づくりを行う上での課題抽出と市民参加システムの構築を図る。
成果	1. 講座の参加者が、個人活動から団体活動へと成長を遂げた。 「せんだい・市民の森を創る会」が発足した。 2. 参加者が持っている技術や知識を活用しながら、緑地の基礎情報をまとめ、保全活動の基盤を整えることができた。 3. 他地域で同様のテーマで活動する団体から関心が寄せられ、協力関係が生まれた。
実施概要	●「市民による森づくりプラン」の実施 平成16年度に作成したプランをもとに、緑地の現状把握を行い、コンセプトを整理し具体的な整備内容をまとめた。 ○市民の森講座&フィールドワーク(全10回) ・第1回市民の森講座「歴史を知る」<4/23> 講師:仙台・国見おたから研究会 齋藤光巧氏 参加者:16名 ・第2回市民の森講座「植物を知る」&フィールドワークⅠ<5/15> 講師:樹藝コンサルタント 柳原昊氏 参加者:13名 ・第3回市民の森講座&フィールドワークⅡ<6/19> 森の調査、コンセプトワーク 参加者:11名 ・第4回市民の森講座&フィールドワークⅢ<7/17> 水辺の探検、ゾーニングとコンセプトワーク 参加者:12名 ・第5回市民の森講座&フィールドワークⅣ<8/28> ゾーニング・今後の進め方等検討、入口部分の調査 参加者:15名 ・第6回市民の森講座&フィールドワークⅤ<10/2> 階段づくり、広場づくり、11月講座の計画検討 参加者:9名 ・第7回市民の森講座&フィールドワークⅥ<10/16> 11月講座の計画検討、階段づくり、広場づくり 参加者:13名 ・第8回市民の森講座&フィールドワークⅦ<11/13> 11月講座の計画検討、準備作業 参加者:10名 ・第9回市民の森講座&フィールドワークⅧ<11/20> 「森のシャンデリアで会いましょう!」開催 参加者:27名 ・第10回市民の森講座 まとめ<12/18> 参加者:16名 ○市民の森講座参加者:18名(平成16年度からの継続参加者が16名)

事業名	緑の市民ネットワーク策定検討業務
委託者	仙台市(建設局緑化推進課)
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	市民自らが緑を通したまちづくりに主体的に関わることができるようにするために、緑に関する市民ネットワークを構築する。 そのために緑に関する、情報の発信、人材の育成と交流、専門知識の習得の体制づくりを進めるにあたり、市民の意見を広く取り入れながら、次のことをおこなった。 ①シンポジウムの開催 ②ワークショップの開催 ③情報紙発行のための原稿データ作成
成果	1. 緑を通したまちづくり活動に取り組む市民・NPOや専門家など、比較的関心の高い市民がシンポジウムとワークショップに参加したことによって、多くの問題点や課題が顕在化し共有が促された。 2. 今回のような「場(機会)」があったことにより、緑を通したまちづくり活動に関わる人材と情報の価値を再認識し、さらには交流の機会の重要性を実感できた。
実施概要	①シンポジウムの開催 タイトル:百年の杜づくりシンポジウム「みんなでつくろう緑の輪」～事例で学ぶ人づくり～ 第1部 基調講演 第2部 パネルディスカッション 日時:2006年1月28日(土) 13:30～17:00(開場 13:00) 場所:戦災復興記念会館 5階会議室 対象:緑づくりに関心のある市民 参加者数:40名(他、出演者:6名、当日運営関係者:9名、総数:55名) 成果:☐ 他都市における先行事例と地元で活動している団体の成果と情報は、これから活動したい市民やすでに活動している団体にとって、大きな励みとなった。 ☐ 団体や活動者にとって、学びと交流の機会を提供できた。 ☐ 仙台市の花と緑に関する関連部署の横断的な情報提供があった。 ②ワークショップの開催 タイトル:百年の杜づくりワークショップ「みんなでつくろう緑の輪」 ～緑を通じた人づくり・まちづくりワークショップ～ 日時:2006年2月11日(土・祝)・25日(土) 13:30～17:00(210分) 場所:市役所上杉分庁舎 5階第2会議室 対象:緑の市民活動に取り組む意欲のある市民 参加者数:25名(他、関係者 8名、総数:33名) 成果:☐ 参加者から5つのテーマが設定され、具体的な解決策の提案に至った。 ☐ 参加者の感想から伺えるように、緑を通したまちづくり活動に関する情報や人材、ネットワークや交流の場・機会を必要としている状況を把握することができた。 ☐ 本ワークショップそのものが、活動者・専門家とこれから活動したい市民の交流の機会となった。 ☐ ワークショップ終了後、参加者同士の交流が活発になった。 ☐ 短時間のわりには、効果的に問題点を顕在化し、共有と情報交換が行なえた。 ③情報紙発行のための原稿データ作成 ○情報紙タイトル:せんだい百社通信 ＊市民が緑づくりに取り組むにあたり参考となる情報を掲載した情報紙 ○活用の仕方:緑づくりの市民活動を支えていくツールとして、活動している人や団体を紹介し、市民活動の成果を広く社会に発信していく。市民協働の取り組みの必要性を感じていけるツールとして、行政発の情報と市民発の情報の相互を発信していく。読み手と作り手の双方向型の紙面づくりにする。 成果 ・市民が「百年の杜づくり」を知るきっかけとして、手軽なコミュニケーションツールとして活用することができた。 ・取材や情報収集を通し、NPO・市民との顔が見える関係が促された。 ・所管課と当センターとの編集体制が整備された。

事業名	ドナーの学校	
主催	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター (宮城県共同募金会配分金申請事業)	
企画・実施	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
目的	NPOの資金集めは、NPO自身が資金調達力を向上させることと、市民・企業がNPOの活動を理解することが不可欠である。本事業は、募金箱コンテストやドネーションパーティを通じて、市民とNPOの双方がともに寄付について学び合うことが目的である。また、「みんなファンド」の認知を2つのイベントとパンフレット制作により高めることも目的である。	
成果	1. 募金箱を一般公募し、それを市内10箇所のお店に設置することで、みんなファンドへの関心を集めることが出来た。 2. OKOKOROチケットの販売やパーティでのプレゼンテーションを通じて参加NPOが資金調達の方法と難しさを体験できた。 3. NPOへの資金支援ができた。 4. みんなファンドのパンフレットができた。	
実施概要	●事業名:ドナーの学校 ○イベント名:芸術的募金箱大募集 募集期間:2005年10月11日～11月10日 成 果: ☐初めての試みであったが、18名の応募があった。(県外1名) ☐市内・県外の大学や専門学校の広報協力を得ることができた。(10校) ○イベント名:芸術的募金箱 展示審査 募集期間:2005年11月25日～12月7日 場 所:市内10店舗(作品破損のため、1店舗は設置せず) 成 果: ☐募金箱設置協力店・11店よりみんなファンドへの理解を得ることができた。 ☐募金箱やみんなファンドについてのアドバイスを設置協力店よりいただくことができた。 ☐設置協力店が募金箱に愛着を持ってくれた。 ○イベント名:芸術的募金箱 コンテスト最終審査 日 時:2005年12月9日 対 象:ドネーションパーティ出席者 参加者数:120名(審査員:3名、当日運営関係者:約20名) 成 果: ☐まちづくりやアートの視点から、芸術的募金箱の価値を再確認できた。 ☐入賞者と審査員によるコラボレーションがコンテストを盛り上げた。 ○イベント名:12月のドネーションパーティ 日 時:2005年12月9日(金) 18:00～21:00 場 所:エル・パーク仙台6階 スタジオホール 対 象:NPOの活動に関心のある市民 参加者数:120名(参加NPO:7団体、関係者:約20名) 成 果: ☐ 432,500円+234,500円=667,000円の寄付を集めることができた。 ☐NPOと参加者との交流が盛んに行なわれた。 ☐参加団体が寄付を集める意義や寄付者に訴える意義を再認識した。 ☐寄付金や助成金の資金支援者の気持ちをNPOに伝えることができた。	

事業名	サポート資源提供システム																				
主催	当センター																				
企画・実施	当センター																				
目的	サポート資源提供システムは、地域のNPO・NGOや市民活動団体、ボランティア団体など（以下、NPO）が必要とする様々な経営資源（物品、パソコン、資金、人材、ノウハウなど）を、企業、各種団体、市民など社会一般から集め、それをNPOに仲介・提供することで、NPOを支援し、地域を元気にするしくみである。 また、資源提供を通じて、企業とNPOの新しい関係をつくり、地域社会に対する参加を促進していくことも目的の1つである。このような企業とNPOのパートナーシップ形成によって、企業活動にとってもNPO活動にとっても大きなメリットを生み出していくことを目指している。																				
成果	「サポート資源提供システム」の本格運用4年目、その資金提供プログラム「地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）」の運用3年目となる2005年度事業の特徴としては、新たに寄付文化の醸成のために「ドナー（寄付者）の学校」事業に取り組んだ。 前年度と同様、オフィス什器・備品や消耗品といった「物品等提供」、中古パソコンや周辺機器を提供する「パソコン等提供」、そして「資金提供＝みんなファンド」の3プログラムで資源提供が行われた。年間の実績としては表1に示す通り、のべ112団体に約1,136万円相当の支援を実施することができた。この支援総額は前年度実績比で43%増となっている。なおシステムの運用当初（2001年9月）からの支援総額の累積は3,312万円となった。 前年度に引き続き、システムの運営については、運営委員会との協議の上で進められた。さらに、システムの運営状況について随時ホームページ上で公開するとともに、資源提供を受けたNPOの情報については、関連事業であるNPO情報ライブラリー等を通して積極的に発信し、透明性・公開性の高いシステム運営を行った。 また、関連事業として昨年に引き続きキャンペーン「せんだいCARES2005」を実施、多くの関連企業・団体の協力を得て、企業人やその周囲の人々がNPOの活動により参加しやすくなるような情報提供を行った。																				
実施概要	○サポート資源提供システム http://www.minmin.org/SSS/ ・みんなファンド http://www.minmin.org/fund/ ・ろうきん地域貢献ファンド http://www.minmin.org/fund/roukin/ ・みやぎNPO夢ファンド http://www.minmin.org/fund/miyagi/ ・NPO情報ライブラリー http://www.minmin.org/Library/ ○サポート資源提供システム 2005年度 資源提供実績 <table><tr><td></td><td>提供先団体数 (のべ数)</td><td>提供点数</td><td>金額換算価値 (※)</td></tr><tr><td>物品等提供</td><td>35団体</td><td>572点</td><td>159.5万円</td></tr><tr><td>パソコン等提供</td><td>41団体</td><td>56点</td><td>104.5万円</td></tr><tr><td>資金提供 ＝みんなファンド</td><td>36団体</td><td>—</td><td>872万円</td></tr><tr><td>計</td><td>112団体</td><td>—</td><td>1,136万円</td></tr></table> (※) 物品・パソコンは一般の中古市場価格にて換算		提供先団体数 (のべ数)	提供点数	金額換算価値 (※)	物品等提供	35団体	572点	159.5万円	パソコン等提供	41団体	56点	104.5万円	資金提供 ＝みんなファンド	36団体	—	872万円	計	112団体	—	1,136万円
	提供先団体数 (のべ数)	提供点数	金額換算価値 (※)																		
物品等提供	35団体	572点	159.5万円																		
パソコン等提供	41団体	56点	104.5万円																		
資金提供 ＝みんなファンド	36団体	—	872万円																		
計	112団体	—	1,136万円																		

事業名	仙台市市民活動サポートセンター管理・運営
委託者	仙台市(企画市民局)
指定管理者	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
目的	多様な市民活動がさらに活発になるように支援を行うとともに、市民・企業・行政の協働のまちづくりを推進していくことを目的とし、仙台市により設置されている。
成果	＜平成17年度の取り組み目標＞＊自主設定 サポートセンターの5つの機能を多くの利用者に伝え、サービスを効果的に活用してもらう。また、市民活動を支援する施設の先駆者としての自覚を持ち、躍動感のあるセンターを目指す。この目標を達成するために、下記の3点を設定した。 1. 戦略的なサービス提供 2. サポートセンターの機能及びサービスの広報の推進 3. スタッフ人材育成 その結果、「1.」における大きな成果は①骨プロ事業(仙台に情報の背骨を通すプロジェクト:通称骨プロ)、②協働相談事業、③図書販売委託事業の3つの新規事業を開始したことである。 ①骨プロ事業:第1弾企画として、NPOやボランティアグループの情報発信をサポートし、その情報を多くの市民に届けるため、イベントや講座の案内チラシを市内9つの公共施設でお預かりするチラシサポート企画を実施した。6月から開始し、延べ345種類のチラシを受付けた。 ②協働相談事業:6月より、現行もしくは今後予定しているNPOと仙台市との協働事業における課題や、協働事業につながる事業提案などについて相談に応じる協働相談所を開設した。相談者の「協働」に対する認識を深めることができたことやNPOと行政双方が連携して第三者機関として相談対応を行うことで、より効果的な相談が可能になった。 ③図書販売委託事業:8月より、団体の活動をより多くの市民に知ってもらうことを目的とし、主に地元の市民活動団体やNPOが発行する報告書や図書をサポートセンター事務局でお預かりし販売した。8件6団体の申込があり、年間販売数は45冊(月平均6冊)であった。 社会や利用者像の変化を読み取りながら、真に利用者が必要としているサービスを、市民活動支援室と協働で行うことができた。 「2.」「3.」においては、以下のとおり。 2. サポートセンターの機能及びサービスの広報の推進 人材育成事業のNPOいろは塾やNPOマネジメント講座の中で、サポートセンターのサービスメニューを参加者へアピールすることができた。また、講座の募集や移転等の情報を、ホームページを通して素早く提供することができた(ホームページのアクセス数は前年度比114.2%であった)。 3. スタッフ人材育成 新人研修は、随時工夫と改善を取り入れながら対応し、フォローアップ研修なども取り入れた。また、各事業においては、明確な役割分担のもと、チームワーク良く、遂行することができた。
実施概要	1. 場の提供 2. 情報サポート 3. 情報発信 4. 新規事業 (1) 仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称:骨プロ) (2) 協働相談事業 (3) 図書委託販売事業 5. まつり事業 6. 人材育成事業 7. 市民活動企業講座事業 8. 視察・見学対応

3. センターの運営に関する事項

(1) 通常総会の開催

① 第7回通常総会

日 時：2005 年 9 月 3 日（土）13:15～15:45

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 3階セミナーホール

出席者数：正会員 出席 61 名、委任状提出 51 名、合計 67 名（正会員 110 名中）

議 事：第 1 号議案 2004 年度の事業報告および決算の承認

第 2 号議案 2005 年度の事業計画および予算の審議・決定

第 3 号議案 定款の変更の承認

② 記念セミナー

日 時：2005 年 9 月 3 日（土）16:00～17:30

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 3階セミナーホール

テ ー マ：「これからのコミュニティ経営

一町内会・NPO・コミュニティビジネス」

講師：櫻井常矢さん（高崎経済大学 地域政策学部）

出席者数：46 名

(2) 理事会の開催

○第 74 回理事会

日時：2005 年 7 月 20 日（水）18:51～20:55

- ・ 2004 年度事業報告・決算報告について
- ・ 2005 年度事業計画・予算について
- ・ 新規入会者承認
- ・ その他

○第 75 回理事会

日時：2005 年 8 月 22 日（月）19:04～

- ・ 2004 年度事業報告書・決算報告書の再承認
- ・ 2005 年度事業計画・予算の承認
- ・ 新規入会者承認
- ・ その他

○第 76 回理事会（総会直前）

日時：2005 年 9 月 3 日（土）11:00～12:00

会場：仙台市市民活動サポートセンター

- ・ 総会議案について

- ・ 新規入会者承認
- ・ その他

○第 77 回理事会（理事合宿）

日時：2005 年 9 月 23 日（金）9:15～16:00

会場：グリーンピア岩沼

- ・ 中長期戦略について
- 今後の事業の取り組みについて
- 仙台市市民活動サポートセンター移転に伴う提案
- の決定
- その他
- ・ 新規入会者承認
- ・ その他

○第 78 回理事会

日時：2005 年 10 月 20 日（木）19:00～21:20

- ・中長期戦略について

10周年を目指してどうしていくか

仙台市市民活動サポートセンターの移転について

その他の事業

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第79回理事会

日時：2005年11月24日（木）19:30～21:00

- ・中長期戦略について

10周年を目指してどうしていくか

仙台市市民活動サポートセンターの移転について

その他の事業

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第80回理事会

日時：2005年12月20日（火）19:00～20:40

- ・家賃について

- ・仙台市市民活動サポートセンターの移転について

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第81回理事会

日時：2006年1月20日（金）19:04～21:30

- ・仙台市市民活動サポートセンターの移転に関する方針について

- ・年間スケジュールについて

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第82回理事会

日時：2006年2月20日（月）19:00～

- ・仙台市市民活動サポートセンターの運営懇話会設置について

- ・名取市からの依頼について

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第83回理事会

日時：2006年3月20日（月）18:30～22:00

- ・評議員会の準備について

- ・改選期による理事候補の検討

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第84回理事会

日時：2006年4月21日（月）18:55～

- ・評議員会について

- ・2006年4月以降の見通しについて

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第85回理事会

日時：2006年5月18日（木）19:15～21:10

- ・サポート資源提供システム

2005年度事業報告・決算

2006年度事業計画・予算

- ・2006年度の事業の方向性に関して

- ・新規入会者承認

- ・その他

○第86回理事会

日時：2006年6月20日（火）19:05～21:00

- ・仙台市市民活動サポートセンター指定管理者の協定書について

- ・総会について

- ・新規入会者承認

- ・その他

＊会場の明記がないものは、すべてせんだい・みやぎNPOセンターにて開催した。

(3) 評議員会の開催

○第 10 回評議員会

日 時：2005 年 10 月 4 日（火）18:30～20:30

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 3 階セミナーホール

内 容：2004 年度事業報告と 2005 年度事業計画および今後の展望について、
意見交換

参加者：15 名、理事 4 名、事務局 5 名

○第 11 回評議員会

日 時：2006 年 4 月 25 日（火）18:20～20:20

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 3 階セミナーホール

内 容：2005 年度事業報告、意見交換

参加者：17 名、理事 4 名、事務局 6 名

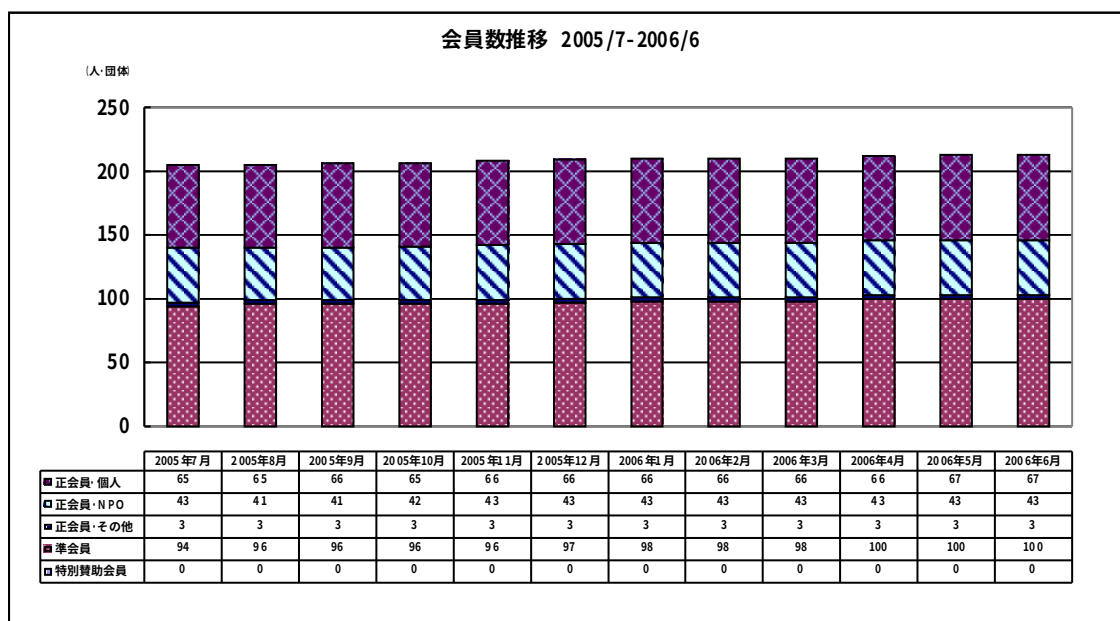
(4) 会員について

2005 年 7 月期：会員数 205 個人・団体

2006 年 6 月期：会員数 213 個人・団体

新規入会 12：正会員 7（個人 4、NPO 3）、準会員 5

種別変更 4：正会員から準会員への切り替え



(5) 事務局について

①人員体制

<職員>

○せんだい・みやぎNPOセンター事務局勤務（仙台市青葉区大町）

常務理事：加藤哲夫、紅邑晶子

理事：黒澤 学（05.10～移転プロジェクト担当理事）

事務局長：紅邑晶子

事務局次長：青木ユカリ、遠藤智栄

常勤職員：遊佐さゆり、大友和佳子（05.10.3～）

非常勤職員：高田 篤、小松敏成（05.12.2～）、佐藤友里（06.4.21～移転専任）

○仙台市市民活動サポートセンター勤務（仙台市青葉区本町）

センター長：遠藤孝志

副センター長：真壁さおり

常勤職員：伊藤浩子、小松州子、八田篤司、本田ふみ、渡辺幸代、佐藤友里（～06.4.20）

小林正夫（05.11.11～）、千葉やす恵（06.3.13～）、高橋陽佑（06.3.13～）

能藤玲子（休職～05.8.31）、高橋信恵（～05.10.20）、門間裕美（～06.3.20）

非常勤職員：関口憲一、渋谷 丹（06.1.10～）、内川奈津子（06.3.15～）

安達智史（～05.11.30）、飯塚文子（～05.11.30）

阿部啓二（06.1.10～3.9）、布田 剛（～06.3.31）、太田 貴（～06.4.30）

<インターンシップの受け入れ>

○特定非営利活動法人市民社会創造ファンドのインターンシップ奨励プログラム「NPOの現場を市民社会の小さな学校（SSCS）」によるインターン1名を受け入れた。

・杉本隼人さん（宮城大学大学院 事業構想学研究科 修士課程1年）

○財団法人仙台市産業振興事業団の事業「ジョブ・トライアルー若者のための就業体験研修ー」による1名を受け入れた。

・茂木 亮さん

<研修生の受け入れ>

○多賀城市（総務部市民活動推進室）より、3名の研修生を受け入れた。

②会議

＜大町全体ミーティングの開催＞

2005 年 7 月～2006 年 6 月：12 回開催（月 1 回）

メンバー：事務局長、事務局次長、大町職員、インターン

所管事項：大町における事業に関する事項、大町の総務関連事項、
その他

○第 4 回：2005/7/11 ○第 5 回：8/3 ○第 6 回：9/5 ○第 7 回：10/7 ○第 8 回：11/7

○第 9 回：12/7 ○第 10 回：2006/1/11 ○第 11 回：2/6 ○第 12 回：3/6

○第 14 回：5/18 ○第 15 回：6/15

＜戦略会議の開催＞

2005 年 7 月～2006 年 6 月：12 回開催（月 1 回、第 3 木曜日午後）

メンバー：常務理事、事務局長、事務局次長、S C 正副センター長
（必要に応じて、事業担当者から報告を求める）

所管事項：センターの経営戦略全体、資金、人事に関する事項、大町・
S C 両業務の総括と連絡調整に関する事項、センター会議
の運営に関する事項

○第 5 回：2005/7/10 ○第 6 回：8/11 ○第 7 回：9/15 ○第 8 回：10/13

○第 10 回：12/15 ○第 11 回：2006/1/19 ○第 12 回：2/16 ○第 13 回：3/16

○第 14 回：4/20 ○第 15 回：5/8 ○第 16 回：5/18 ○第 17 回：6/15

＜センター会議の開催＞

2005 年 7 月～2006 年 6 月：12 回開催（月 1 回、最終水曜日）

参加者：センター職員全員

内 容：全体で議論しなければならないことを中心に、事業報告系は
ML へ

○2005/7/27 田代理事を迎え、せんだい CARES、総会

○8/31 協働調査概要報告、ドナーの学校事業概要説明、サポセン移転について、総会

○9/28 研修報告、せんだい CARES 進捗状況、サポセン移転について

○10/26 人事関連、せんだい CARES 進捗状況、ドナーの学校進捗状況、市民活動カラ
フルフェスタ、協働コーディネーター講座、サポセン移転プロジェクト

○11/30 移転プロジェクト、せんだい CARES 進捗状況、ドナーの学校進捗状況、
人事関連

○12/28 木村理事をお迎えして、人事関連、SSCS インターンシップ奨励プログラム中
間報告

○2006/1/25 移転プロジェクト、スタッフ研修①

- 2/22 移転プロジェクト、スタッフ研修②
- 3/29 移転プロジェクト、スタッフ研修③、みんなについて、卒業スタッフから
- 4/26 移転プロジェクト、スタッフ研修④
- 5/31 河北新報社夕刊編集室担当者との意見交換会、SSCS活動報告、事業担当について、
スタッフ研修⑤、移転プロジェクト
- 6/28 移転プロジェクト、センダードサロン、スタッフ研修⑥

<目標管理会議>

2005 年 7 月～2006 年 6 月：4 回開催

参加者 SC 正副センター長、SC 各班主任

常務理事、事務局長、事務局次長

所管事項 仙台市市民活動サポートセンターの事業に関する事項

○2005/7/27 ○10/11 ○2006/1/31 ○4/4